



前期研修 鏝絵実習 (富山県射水市)

会報 全国文化財壁技術保存会

第 13 号

平成二十五(二〇一三)年三月三十一日発行
編集 全国文化財壁技術保存会
発行 愛知県江南市力長町 大当寺 二二八
事務局
TEL (〇五八七) 五九一八〇〇〇

会長 佐藤 治男



厳しい社会が続いております。
我々の業界も皆、厳しい立場に
おかれています。その中で、壁
保存会は発足してより17年ほど
ですが、今までこれほど大変な
状況はありません。その中で、
例年どおり文化庁主催のイベン
トが姫路市で開催されました。
文化財を守るということに多く
の市民の関心が高いようで、大
変盛況でした。当会も参加して

道具や現場の写真を展示しまし
た。今回は会員の山脇氏のご厚
意により、お城の屋根目地漆喰
の施工状態が解るように模型を
出展いたしました。毎年同じパ
ターンで申し訳なく思っていま
す。他の保存会の皆様方は色々
工夫をされておられます。言い
訳になりますが、当会で実技を
体験していただくためには、練っ
た壁土を使いますので体験され
ます方が汚れて迷惑をおかけす
るかもしれないと躊躇しており
ました。来年からは考えなけれ
ばならないと思っています。
次に若い技能者の初級研修で
は、まだ経験が浅く文化財を守
るという左官職人としての心構
えが少ないように見受けられま
す。研修を通じて、文化財の壁
工事を担う左官職人としての技
と誇りを身につけていただきた
いと思っています。

今年度より始まった中級技能

者の研修では、昨年学科講習の修了者の内 5 名が実技で懸魚の中心の六葉の鍔絵の制作に臨みました。さすが 10 年以上のキャリアが有る研修生は作業態度も非常によく、使用する道具類もよく手入れが出来ています。文化財を守る左官技能者として後輩のよき手本となり、現在は、現場の責任者として、将来は次の世代の文化財保存工事のよき指導者として活躍されることを望みます。

昨年度に続いて、当会にとりましても喜ばしいことがありました。滋賀県の津田誠一氏が黄綬褒章を、京都の浅原雄三氏が現在の名工として大臣表彰を受けられました。おめでとうございます。今後とも当会の発展のため、ご指導賜りたく願います。



副会長 安達保信



先ずは今年も会報 13 号の発刊をさせて頂くことが出来ますことを、当保存会会員様及びご協力賜りました関係の諸先生、協力業者の皆様と共々お慶び申し上げます。これも一年を通じた研修会、また準備の役員の方々、会員各位の絶大なる協力を頂いた結果で、報告紙面が充実している事、有難いものと存じます。特に平成 24 年度は、会発足以来初めての「中級技能試験」を実施し、「学科試験」「実技試験」とともに合格者を出しましたことは、当会の将来を担う指導者として囑望されることと確信するものです。そして学科試験に携

わっていたいただいた諸先生方にも篤く御礼申し上げる次第であります。

また、研修内容も年々充実しています。文化財保存技術として一般建築とは違う特殊性を後継者の皆さんに十分認識してもらうよう、我々指導者が方向づけを示すことであり、今までの技術とあわせて、明治・大正・昭和初期の洋風建築に対応する技法も今後勉強してもらいたく考えます。どうぞ各位様もご協力賜りますようお願い致します。

津田誠一さん
黄綬褒章を受章

この度、たいへん名誉ある黄綬褒章をいただきました。また、平成 22 年 11 月 8 日には滋賀県知事賞を、そして翌月には文化庁の文化庁長官様より表彰を賜り、心より感謝いたしている所でございます。

大正の初めに先代になる父、源蔵が比叡山のお膝元の阪本に於いて左官業を始めましたが、私はただそれを引き継ぎ、今日に至るまで六十有余年の歳月を仕事一筋に続けてまいりました。そしてこの度、このように望外の評価をいただくことになりました。いま強く心に浮かびますのは、自らの人生を振り返りながら、長きに渡りお世話になった皆さま方に対する深甚なる感謝の念に加えて、深い感銘と感激を覚えていることでございます。ことに、私にとりまして幸いであったことは、比叡山延暦寺様を始め、山王総本宮日吉大

社様、天台寺門宗総本山園城寺（三井寺）様とのご縁をいただきましたこと、さらに文化財を抱えておられる多くの社寺の皆さま方との間にも、この上ないご縁をいただき、文化財の修理や補修を通じて貴重な勉強の機会をお与えいただいたことです。このたびの受賞は「果たして私がそれに値するのだろうか」と大変恐縮している次第でございます。未熟な私を今日まで支えて御導引いただきました文化財関係の諸先生方、私を信頼して仕事を任せいただいた社寺の先生方、そのほか本当に多くの方々のお力添えいただきましたことに心からの感謝と御礼を申し上げます。現在、私は八十歳を迎え第一線の仕事は息子に譲る傍ら、同じ道を目指す若者たちや、後進たちの育成に全力を注いでおります。また、全国文化財壁技術保存会の

会員にも加えていただき、今までは違って日本全国といった幅広い視野にたち、新たな勉強をさせていただいているところでもございます。なお今後におきましては先ずもって、今まで共に歩んできた家族や友人、また同じ仕事仲間などこの喜びを分かち合いたいと思います。口ほどにはついてこなくなった身体ではありますが、このたびの受賞に恥じることなきよう、先代から受け継いで来た昔ながらのやり方を踏襲しつつ、左官技術の継承と業界の振興に務めながら、更に努力と研鑽を重ね文化財の保護などに僅かでもお役に立てればと気を引き締めている次第です。残された人生を全力を以て取り組んでまいれる所存でございますので、何卒今後ともこれまでと同様、相変わらずのご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



総会の開催

第20期(平成24年度)総会
平成24年6月3日に京都市で第20期定期総会を行いました。
来賓には、(公)全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長の後藤佐雅夫様、京都府教育庁指導部文化財保護課副課長の鶴岡典慶様、姫路市立城郭研究室専門員の上田耕三様にご出席を頂きました。平成23年度の事業報告及び収支報告、24年度の事業計画及び収支予算案の審議を行い、原案のとおり承認されました。



佐藤会長展示物を説明

**文化財保存技術 2012
文化財を支える伝統の名匠
(姫路市)**
文化庁の主催により、平成24年10月13・14日、姫路市で開催されました。本会は活動状況や左官材料・道具などの展示を行いました。姫路での開催でしたので姫路城の大きな特徴であります屋根目地漆喰を制作し、多くの皆さんに伝統左官の仕事を見ていただきました。

文化財建造物保存活用 公開セミナー（京都市）

平成 24 年 11 月 3、4、10 日、

京都市文化財建造物保存技術センターと清水寺にて「文化財建造物保存活用公開セミナー」が開催されました。本会は木舞掻き実演・体験、左官材料や活動展示を行いました。会場には多くの皆様にお越しいただき、伝統技術の理解を深めいただく機会となりました。



左官（日本壁）伝承者 中級技能試験

保存会の新たな取り組みとして、懸案となっていました、左官（日本壁）選定保存技術の、中級技能試験を初めて行いました。

平成 23 年度に筆記試験の合格者 5 名（浅原一郎、北村久彦、杉坂健、田中昭義、矢野孝太郎）を対象とし、実技試験を平成 24 年 9 月 8 日～10 日の 3 日間、愛知県江南市において行いました。

（公）全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長の後藤佐雅夫様による「茶室について」の講義を受けた後 5 名の受験生は試験課題である「六葉の漆喰塗り」をそれぞれが制作しました。今後、これら中級技能者が後輩の良き指導者となり、文化財左官現場での中核を担うことを期待しています。



講 義



六葉制作



六葉制作



六葉制作



六葉制作



試験課題の六葉完成

左官(日本壁)伝承者 養成技術研修会

文化財壁技術の継承を図るため「左官(日本壁)伝承者養成研修会(普通講座)」を、平成22年の基礎講座受講生5名を研修生として行いました。前期は平成24年9月3日～8日で、愛知県江南市で行いました。

NPO法人犬山城下町を守る会の長谷川良夫様、愛知県教育委員会文化財保護課の牧謙治様より講義をいただきました。

実技は、大津壁の材料拵え及び塗りを行いました。そして勝興寺(富山県高岡市)の修理現場を見学し、富山県射水市に移動、田村京子様に鰻絵の案内をいただきました。さらに石崎勝紀様の指導により、鰻絵を研修生一同制作しました。(表紙写真)

後期は、11月12日～17日、ま

ず、高知県の石灰工場を見学し、中脇修身様による土佐漆喰の講義を受けました。そして土佐漆喰塗りの実技、また土佐漆喰製造工場の見学をいたしました。香川県に移動し、博物館四国村みろく自然公園で、文化財建造物を見学しました。

姫路市に移動し、姫路市立城郭研究室の上田耕三様より、姫路城修理現場の見学及び姫路城保存修理の講義を受けました。

引き続き、西山和宏文化庁文化財調査官より文化財行政の講義をしていただきました。

研修最後に、漆喰材料拵え、赤漆喰・黒漆喰塗りの実技研修を行い、前期・後期の研修を終えました。

講師の皆様、準備をいただいた皆様、そしてご協力いただきました会員の皆様、ありがとうございました。



鰻絵実習



前期研修にて



材料拵え



材料拵え



大津壁塗り



勝興寺修理現場見学



土佐漆喰塗り



土佐漆喰塗り



土佐漆喰製造の見学



色漆喰材料拵え



色漆喰塗り



姫路城修理現場見学

研修を終えて 平成24年度研修生の感想

◆ 荒木 孝行

9月の研修は、主に実技を中心とした研修でした。まずは、大津壁の実技。これから文化財の仕事に携わっていくうえで、材料作りから仕上げまで体験できたことを生かし、大津壁をもっと研究して、あらゆる現場に貢献していきたいと思います。

次に鰻絵の実技。以前、伊豆の長八記念館に行ったことがあります。竹内源造の鰻絵を見るのは初めてでした。名越家の双龍の、幅18mの大作には驚きました。私は、鯉の鰻絵に挑戦しました。鰻絵の講師で、石崎勝紀先生に指導してもらいました。特に鯉の尾ひれの部分が難しく試行錯誤していたところ、先生のアドバイスで繊細な尾ひ

れができました。この機会に、趣味の一環としてもうひとつ作品を作りたいなってしまうほど楽しかったです。

11月、土佐漆喰の製造見学では、物を作る作り手として、様々な苦労があることが分かりました。私たち左官も、ほとんどが感覚勝負です。石灰を造る職人さんたちの、長年の経験と感覚で最良な漆喰をつくりたいという思いがすぐく伝わってきました。姫路城の見学については、前回外周を見学させて頂きましたが、今回、城外を見学することができました。懸魚や唐草の彫刻が素晴らしい精度で出来上がっていてとても驚きました。人の仕事を見るのも、とても勉強になりました。実技では、土佐漆喰磨きを体験させて頂きました。ノロをかけるタイミングや鰻の運び方を丁寧に教えて頂きました。最後に、赤と黒の大

津磨きを材料作りから一つずつ丁寧に教えて頂きました。

左官にはまだまだ忘れてはいけない技法があります。研修で学んだことをきちんと守り、実践で経験を積み、腕を磨いて行きたいと思います。

会長、佐藤治男さんをはじめ、役員の皆様大変お世話になり、誠にありがとうございました。

(株)あじま左官工芸

◆ 永井 宏和

9月に前期、11月に後期研修会を終えて、たくさんの勉強をさせて頂きました。

前期の研修では、大津壁の実技をさせて頂いたり、珍しい鰻絵の建物の見学へ行きました。鰻絵の実技ではなかなか上手く出来ず、石崎先生にご指導いただき、仕上げる事ができました。時間を作り、また鰻絵にチャレンジしたいと思います。

後期の研修では土佐漆喰の実技と講義で、大変貴重な経験をさせて頂きました。姫路においては講義と実技があり、姫路城では大天守を間近で見ることができ、良い記念になりました。普段携わることのない経験ができ、本当に勉強になりました。

今回、前期後期の講義をして頂いた先生方、実技指導をして頂いた先生方、研修生の皆さん、大変お世話になりました。また皆さんにお会いしたいと思います。これから左官をしていくにあたって、大変貴重な経験ができました。この研修で学んだことを忘れず、仕事に生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

(榊山協組)

◆ 瀧田 桂太

基礎講座から普通講座を通して感じたのは、日本建築の素晴

らしさです。様々な現場や建物を見学していると、こんなに素晴らしい日本を知って貰いたいと再認識しました。それには更なる技術の向上もさることながら、自分の目を更に肥やすと同時に、様々な立場からの目線をしっかり認識して、先人方からの技能伝承や様々な立場の方からの意見や指導を受け、更なる人間力の向上に励まねばならないと改めて感じました。

伝統工法による左官には正解はないと思っています。ですから、常に柔軟な姿勢で挑まなければならぬと信じています。それゆえ無限の可能性もあるのも左官の魅力だと思います。講義を通して様々な指導を受けていく中で、同じ技法、材料に関しても多様な意見があるのが、まさにそれだと思います。一つの技法、材料で多種多様なのですから、それらを融合させると

何倍にも何十倍にも膨らみます。

日本文化を守ろうと行政や個人、様々な機関、場所で研究、努力、支援がなされているのは大変心強いです。私たちはこの不況の中、わざわざ左官を選んでいるのですから、好きでやっている人の方が多いかと思っています。職業左官ではなく左官が好きな私たちが協力して、しっかりとした仕事をしていけば、左官の凄さが再認識されたと信じています。速い安いでは到底出来ない事を、しっかり示して行けたら、伝統工法への理解も深まるのではないのでしょうか。

住居にこそ左官は必要で左官の力をより発揮できると考えています。住宅にも伝統工法を復活させられたなら、成功したと自分を褒めてやれると思います。ただ材料に関しては私たちの課題です。藁をはじめ土やササ、

石灰や糊：あげれば限がないですが、どんな質も落ちていくようですし、更には入手困難、入手不能と左官には避けて通れない大問題が待ち構えています。

この度この様な会に参加させて頂けた事を感謝しております。全国文化財壁技術保存会の役員の皆様、ご協力頂いている講師の方々、ありがとうございました。

(中島左官 榊)

◆ 本田 英雅

壁保存会の研修では、文化財建造物の修復に携わる左官職として、まず文化財建造物修復の意義や関連する法律、保存修理の体制や原則といったことを知ることができたことが重要でした。普通に仕事をしているだけでは、このようなことを学ぶことはなかったと思います。これから仕事を進めていくうえで常

に考えていかなくはと思いましたが、

法律・行政の講義や他職種の話、材料の話などを通じて知識を増やしていくことで仕事に対する意識も向上するし、理解度も増したと思います。

各地の左官技術をうかがえる建造物の見学、特に工事中の建造物の見学は左官職としての見聞を広げることができたと思います。

自分としては、それらに劣らず重要だったのが研修を通じて、同じ仕事に携わっている人たちと知り合えたことです。左官技術や材料、道具、仕事の進め方などの話をできたことが良かったです。ありがとうございます。

(佐藤左官工業所)

◆御園 拓馬

この度の壁技術保存会の研修

に参加させて頂いた事で、文化財の修復に携わる職人として必要な基礎知識や技術、心構えについてとても勉強になりました。

これまで何気なく現場でやっていた事も、この度の研修で色々な知識を教えて頂いたことで、考えながら文化財に触れることが出来ます。研修前までは文化財修復の現場に行くとは何でこの柱、新しい物に代えないんだろとか、壁も全部塗り替えれば良いのに、一部だけ残しておくとか、僕には意味が分かりませんでした。どうせ修復するのなら全てを綺麗にしてあげた方が良くないのかと思っていました。ですが、今回の研修で沢山の先生方の講義を聞かせて頂き、その考え方に変化が起きました。文化財の修復とは、旧部材は可能な限り再利用し、材料が持っている歴史的な価値や膨大な情報を保存する事を目的としている

し、先人の技術や技能をより沢山、可能な限り後世に伝えて行くことが大切なんだと勉強になりました。

研修で文化財の保存修復について勉強させて頂いた事で、これから文化財の現場で仕事をする事になっても、むやみやたらに壊したり、傷付けたり、汚してはダメだという思いを持ちながら仕事をして行けます。

研修でこの文化財修復保存の意義を教えて頂いたので、これから文化財に触って行く者としての責任を研修前よりも更に果たして行けるのではないかと思います。そして、微力ながらも文化財としての価値の向上の手助けをしていけたらと思っています。

研修会に参加させて頂いた事を心より感謝しております。本当にありがとうございます。

編集だより

年度初めの計画どおり会報をお届けできることができほっとすると同時に、原稿を執筆いただいた皆様方に改めて御礼申し上げます。伝統文化に型があるように、会報も13号となり、一つの型が出来てきたのではないかと思います。今回は初めての中級試験の様子を掲載することができました。また研修生の皆さんからは貴重な感想をいただきました。津田さん、浅原さんの嬉しい受賞、会長、副会長からのメッセージなど、多様な情報や思いをお寄せいただき多様な紙面になったことに感謝です。事務局の港様には多大なるご尽力を頂きました。改めて御礼申し上げます。

(編集事務局)

姫路市立城郭研究室 上田耕三、

事務局 中嶋正雄)

会 員 名 簿

	会 員 名	住 所	事業所名等
正 会 員	佐 藤 治 男	京都市左京区下鴨南茶ノ木町 23-4	左 官 業 佐 藤
	安 達 保 信	京都市下京区花屋町通り間の町西入る天神町 411-2	(有) 安 達 左 官 店
	中 嶋 正 雄	愛知県江南市力長町大当寺 128	中 島 左 官 (株)
	田 代 益 市	京都市下京区猪熊通り塩小路下がる上夷町 165	(有) 田 代 千 治 店
	石 田 貞 男	さぬき市大川町富田中 2147	石 田 左 官 工 業
	小 林 錦四郎	和歌山県有田郡湯浅町湯浅 2132-17	小 林 左 官 店
	津 田 誠 一	大津市下阪本 1 丁目 20-22	(有) 津田左官工業所
	山 脇 一 夫	姫路市飯田 1-24	(株) 山 脇 組
	浅 原 雄 三	京都市山科区大宅沢町 185	(株) し っ く い 浅 原
	片 田 儀 斎	京都市上京区西洞院通中立売下る菊屋町 256	片田儀斎営業所
	本 田 俊 之	大阪府寝屋川市高柳 2 丁目 43-13	本田左官工業所
	松 本 勉	高知県安芸市井ノ口乙 1202-3	(有) 左 官 松 本 組
	阿 嶋 一 浩	東京都葛飾区青戸 8 丁目 19-11	(株) あじま左官工芸
	小 迫 傳	鹿児島県出水郡長島町蔵之元 3246 の 1	小 迫 左 官
準 会 員	足 立 三喜男	兵庫県三木市緑が丘町東 1-3-4	足 立 組
	石 動 信 明	石川県金沢市神田 1 丁目 31 番 1 号	(株) イ ス ル ギ
	桑 路 丸 幸	兵庫県神崎郡市川町沢 115-2	桑 路 建 塗 (株)
	小 林 常 司	京都市中京区東洞院蛸薬師下る元竹田町 639-11	左 司
	木 津 恵 雄	京都市東山区古門前通り大和太路東入る二丁目三吉町 344	木 津 工 業 所
	加 藤 正 幸	三重県伊賀市東高倉 2380-11	しゃかんかとう屋
賛 助 会 員	中 内 庸 司	京都市上京区浄福寺中立売上る東西俵屋町 157	中 内 建 材 店
	宮 谷 邦 夫	兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘 35 番地の 69	宮 谷 製 作 所
	村 檉 太 郎	栃木県佐野市宮下町 1 番 10 号	村 檉 石 灰 工 業 (株)
	北 野 一 成	大阪府堺市中区深井北町 104-2	(株) 北 正 商 店
	吉 田 鐵太郎	千葉県いすみ市岩船 196	(株) 吉田鉄五郎商店

